

陸連時報 三

2020
令和2年

2 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2020年度主要競技会日程(案).....	230
2020年 年頭にあって(会長 横川浩).....	231
理事会報告.....	232
2019-2020ダイヤモンドアスリート認定式・修了式及び第1回リーダーシッププログラム (ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介(環太平洋大学)).....	234
日清食品カップ第22回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会 (指導者養成委員会 普及ディレクター 岸 政智).....	236
JAAF公認コーチ養成講習会開催報告(指導者養成委員会 田中悠士郎).....	237
ワールドアスレティックス ラベルロードレース メディカルディレクターの要件 (医事委員長 山澤文裕).....	238
JAAF RunLink RUNNINGDAY.....	239
JAAFアスレティックス・アワード2019報告.....	240
施設用器具委員会報告(2019-2).....	241
大会観戦ガイド.....	243
陸協NEWS.....	244
事務局からのお知らせ.....	246

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2020年度 主要競技会日程(案)

※主要競技会日程は、2020年3月の理事会で最終承認されます。

	主催・共催競技会			主要競技会			国際競技会		
	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
4月	12(日)	104 日本選手権50km競歩	石川	11(土)	★ GP 金栗記念選抜中・長距離	えがお健康スタジアム(熊本)			
	19(日)	22 長野マラソン	長野	19(日)	★ GP 出雲陸上	県立浜山公園(鳥根)			
5月	5(火・祝)~6(水・祝)	テストイベント(仮名称)	国立競技場(東京)	2(土・祝)	★ GPP 静岡国際陸上	エコパ(静岡)	2(土)~3(日・祝)	29 世界競歩チーム選手権	ミンスク(ベラルーシ)
	10(日)	ゴールデングランプリ	国立競技場(東京)	4(月・祝)	★ GP ゴールデントーナメントinのべおか	延岡(宮崎)	14(木)~17(日)	19 アジアジュニア陸上競技選手権	バンコク(タイ)
	5/16(土)~17(日)	66 全日本中学通信陸上	各地	5(火・祝)	★ GP 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)			
				6(水・祝)	★ GP 木南道孝記念	ヤンマースタジアム長原(大阪)			
				10(日)	★ 30 仙台国際ハーフマラソン	宮城			
6月	13(土)~14(日)	104 日本選手権混成	長野市営(長野)	5(金)~7(日)	○ 20 日本学生個人	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)	調整中	アジアリレー	調整中
	13(土)~14(日)	36 U20日本選手権混成	長野市営(長野)	6(土)	★ GP Denka Athletics Challenge Cup	デンカビッグスワン(新潟)	調整中	日中韓3カ国交流	中国開催予定
	25(木)~28(日)	104 日本選手権	ヤンマースタジアム長原(大阪)	7(日)	★ GP 布勢スプリント	布勢総合(鳥取)			
7月				28(日)	35 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道			
				5(日)	★ '20 函館マラソン	北海道	7(火)~12(日)	18 U20世界陸上競技選手権	ナイロビ(ケニア)
				12(日)	★ GP 南部記念陸上	円山(北海道)	19(日)	アジアハーフマラソン	チェンライ(タイ)
8月	12(水)~16(日)	73 全国高校陸上	エコパ(静岡)	18(土)	★ 60 実業団・学生対抗	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)	31(金)~8(日)	32 オリンピック	国立競技場(東京)
	13(木)~15(土)	55 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)	30(日)予定	★ '20 北海道マラソン	北海道	23(日)~29(土)	28 日・韓・中ジュニア交流競技会	秋田(日本)
	17(月)~20(木)	47 全国中学陸上	三重交通Gスポーツの杜(三重)						
	22(土)~23(日)	55 全国高専陸上	鴻池(奈良)						
9月	20(日)	36 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)	10(木)~13(日)	○ 89 日本学生対校	デンカビッグスワン(新潟)	12(土)	31 IAU100km世界選手権	ウインホーテン(オランダ)
10月	9(金)~13(火)	75 国民体育大会	鴨池(鹿児島)	2(金)~4(日)	41 全日本マスターズ	福井県福井(福井)			
	23(金)~25(日)	36 U20日本選手権	広域公園(広島)	11(日)	○ 32 出雲全日本大学選抜駅伝	鳥根			
	23(金)~25(日)	14 U18日本選手権	広域公園(広島)	18(日)	GP 田島記念陸上	維新百年記念(山口)			
	調整中	51 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)	25(日)	59 全日本50km競歩高島	山形			
	調整中	104 日本選手権リレー	調整中	25(日)	○ 38 全日本大学女子駅伝	宮城			
11月				25(日)	GP 北九州陸上カーニバル	北九州市本城(福岡)			
				1(日)	○ 52 全日本大学駅伝	愛知・三重			
				8(日)	36 東日本女子駅伝	福島			
				15(日)	10 神戸マラソン	兵庫			
				22(日)	40 全日本実業団女子駅伝	宮城			
12月	6(日)	74 福岡国際マラソン	福岡	29(日)	10 大阪マラソン	大阪			
	13(日)	6 さいたま国際マラソン	埼玉	13(日)	'20 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)			
	20(日)	28 全国中学駅伝	希望が丘(滋賀)	20(日)	39 山陽女子ロードレース	岡山			
	20(日)	71 32全国高校駅伝	京都	20(日)	51 防府読売マラソン	山口			
2021年1月	17(日)	39 都道府県対抗女子駅伝	京都	30(水)	○ '20 全日本大学女子選抜駅伝	静岡			
	24(日)	26 都道府県対抗男子駅伝	広島	1(金・祝)	69 元旦競歩	東京			
	31(日)	40 大阪国際女子マラソン	大阪	1(金・祝)	65 全日本実業団対抗駅伝	群馬			
2月	6(土)~7(日)	104 日本選手権・室内競技	大阪城ホール(大阪)	31(日)	'21 大阪ハーフマラソン	大阪			
	6(土)~7(日)	'21 日本室内陸上大阪	大阪城ホール(大阪)	7(日)	70 別大マラソン	大分			
	14(日)	6 全国中学生クロスカントリー	希望が丘(滋賀)	7(日)	75 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川			
	21(日)	104 日本選手権20km競歩	兵庫	14(日)	32 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)			
	27(土)	104 日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	14(日)	49 実業団ハーフマラソン	山口			
	27(土)	36 U20日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	21(日)	55 青梅マラソン	東京			
	28(日)	76 びわ湖毎日マラソン	滋賀	21(日)	'21 熊本城マラソン	熊本			
3月	7(日)	'21 東京マラソン	東京	21(日)	'21 京都マラソン	京都			
	14(日)	'21 名古屋ウィメンズマラソン	愛知	14(日)	○ 24 日本学生ハーフマラソン	東京	21(日)	アジア陸上競技選手権・20km競歩	能美(石川)
	21(日)	45 全日本競歩能美	石川	21(日)	○ 15 日本学生20km競歩	石川	30(火)	44 世界クロスカントリー選手権	バザースト(オーストラリア)
				21(日)	○ 24 日本学生女子ハーフマラソン	鳥根			

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

2020年 年頭にあたって



新年、明けましておめでとうございます。

明けた2020年、特別な1年の幕があがりました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を今夏に控え、この1年はまさに記憶に残る物語を紡ぐ1年となることでしょう。そして東京2020後の未来も見据え、可能性を探求し続ける日本の陸上競技界を、多くのアスレティックファミリーの皆さまとともに創造していきたいと考えております。

今から7年前、アルゼンチン・ブエノスアイレスでの国際オリンピック委員会総会において“TOKYO”のコールでの決定に歓喜を覚えたあの日から、早月日が過ぎ、東京2020の開幕まで7ヶ月と迫りました。アスリートたちが躍動するスポーツの聖地、国立競技場が11月に新たに完成し、またこの秋の選考競技会において、マラソン、競歩では夢の舞台への切符、代表選手への勝ち名乗りをあげております。颯爽と駆け抜け、大いに飛躍し、しなやかに力強く、すべてのアスリートが最高のパフォーマンスを発揮出来るよう、私どもは、最大限サポートし、十分力を示すことが出来る環境を作っていく所存です。多くの方が夢と希望を抱く、世界最大のスポーツの祭典、オリンピック・パラリンピックはすぐそこです。奇跡を信じ、スポーツの楽しさと感動の共有、そんな日々を多くの皆さまとともに迎えることを待っております。

2019年のシーズンを振り返ると、まず挙げられるのが、男子競歩における輝かしいドーハ世界陸上競技選手権大会でのメダル、50km競歩の鈴木雄介、20km競歩の山西利和の二つの金メダルです。世界最高峰で活躍を見せている日本競歩界にとってオリンピック、世界選手権通じて初、待望の金メダルをもたらしてくれました。メダル常連国となっている男子4×100mリレーでは、ロンドンに続き2大会連続での世界選手権銅メダルを獲得し、競技力は継承されております。東京2020へのラストイヤーとなった昨年は、多くの日本記録が誕生し、群雄割拠、活況を呈しております。「TEAM JAPAN」一丸となり、更なる次元に果敢にチャレンジし、大輪の花を咲かせることが出来るよう、東京2020が自分たちのステージとなることを期待しております。

世界を目指すアスリートの育成はもちろん、アスリートを支える指導者の養成や陸上競技の裾野を広げる普及活動もまた私どもの重要な使命です。2018年に発表した「競技者育成指針」は、一人でも多くのアスリートが長く陸上競技を楽しむために、そしてトップアスリートの育成に繋げるために、各年代・ステージに合った競技者育成および指導者養成の方向性を具体的に示したものです。楽しく元気に体を動かすことから生涯にわたって陸上競技に親しむアクティブアスレティックライフの形成まで、それぞれの過程において、現状と課題および育成の方向性を踏まえたステージ別の具体的な指針のもと様々な施策を推進してまいります。また、同じく2018年に発足した「JAAF RunLink」は、市民マラソン大会の統括・支援、個々人のライフスタイルに合わせたランニングを楽しめる環境・機会を提供することを目的としたプロジェクトです。「JAAF VISION 2017」に掲げた二大ミッションの一つ、すべての人がすべてのステージにおいて陸上競技を楽しむ「ウェルネス陸上の実現」に向けて、競技団体としての新たな務めを果たしてまいります。

東京2020は多くのレガシーを私たちに残してくれるでしょう。このレガシーをスポーツの価値として発展させていくためにも、コンプライアンスの遵守、ガバナンスの強化は当然のことながら極めて重要なことです。世の中の流れに対応し、陸上競技界を牽引する役割を果たすため、ワールドアスレティクスとともに組織力を更に充実させていき、スポーツの振興はもとより、日本陸上競技界の根幹を支えて頂いている加盟団体、協力団体をはじめとする地域や関連団体との連携をより進め、アスリートも含めた多くの関係者とともに歩み、環境保全や社会貢献への積極的な取り組みも続けてまいります。

日頃の皆さま方のご協力に心から御礼申し上げますとともに、今一層、皆さまのご理解、ご支援をお願いいたしましてご挨拶といたします。

公益財団法人日本陸上競技連盟
会長 横川 浩

理事会報告

第58回理事会

日時：2019年12月16日（月） 13時00分～15時18分

場所：ザ・プリンスパークタワー東京 地下2階 さざんか

理事総数30名中出席者28名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

【協議事項】

1. 日本陸上競技選手権大会・室内競技の開催について

風間事務局長より資料に基づき説明があり、原案通り、日本室内陸上競技大阪大会のシニアの部を日本陸上競技選手権大会・室内競技として開催することが承認された。

2020年2月1日、2日に開催する2019年度大会を第103回日本陸上競技選手権大会・室内競技とし、来年度以降も回を重ねる。

2. 2020年度主要競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、2020年度主要競技会日程が承認された。（本号230頁及び本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/201910/2020_calendar.pdf参照）

※2020年度主要競技会日程は、2020年3月に開催する本連盟理事会において最終承認されるため、資料は案のままとする。

3. 日本陸上競技選手権大会・混成競技／U20日本陸上競技選手権大会・混成競技 今後の開催について

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り、2021年度、2022年度の第105回日本陸上競技選手権大会・混成競技／第37回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技、第106回日本陸上競技選手権大会・混成競技／第38回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技を、主管を秋田陸上競技協会として、秋田県立中央公園陸上競技場で開催することが承認された。

4年間での公募であったが、その後の2年間については、開催の状況により判断することがあわせて承認された。

4. 東京2020オリンピック競技大会

トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項の改正

麻場強化委員長より資料に基づき、東京2020オリンピック競技大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項の改正が説明された。主にリレー種目に係る改正が提案されたが、引き続き協議を行うこととなった。

5. 香港2020アジアクロスカントリー選手権大会日本代表選手選考要項

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案通り、香港2020アジアクロスカントリー選手権大会日本代表選手選考要項が承認された。（本連盟WEBサイト <https://www.jaaf.or.jp/news/article/11992/>参照）

6. ミンスク2020世界競歩チーム選手権大会日本代表選手選考要項

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案通り、ミンスク2020世界競歩チーム選手権大会日本代表選手選考要項が承認された。（本連盟WEBサイト <https://www.jaaf.or.jp/news/article/12752/>参照）

7. ナイロビ2020U20世界陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項

麻場強化委員長より資料に基づき、ナイロビ2020U20世界陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項が説明された。

本選考要項は、本大会の参加資格がワールドアスレティックス(WA)から正式発表された後、強化委員会で作成した選考要項案を専務理事の承認をもって最終決定とする。

8. バンコク2020アジアジュニア陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案通り、バンコク2020アジアジュニア陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項が承認された。（本連盟WEBサイト <https://www.jaaf.or.jp/news/article/12752/>参照）

9. 第104回日本陸上競技選手権大会 参加資格

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案通り、第104回日本陸上競技選手権大会参加資格が承認された。

10. 第104回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案通り、第104回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格が承認された。

11. 第77回（2022年度／栃木）・第78回（2023年度／佐賀）国民体育大会の実施種目

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案通り、2022

年度、栃木で行われる第77回、2023年度、佐賀で行われる第78回国民体育大会の実施種目が承認された。

【男子】

区分	種目
成年	100m、300m、800m、3000mSC、110mH、400mH、1000mW、走幅跳、三段跳、砲丸投、やり投
少年A	100m、300m、5000m、300mH、棒高跳、走幅跳、ハンマー投、やり投
少年B	100m、3000m、110mH、走幅跳、円盤投
少年共通	800m、5000mW、走高跳
成年・少年共通	4×100mリレー

※成年三段跳には少年区分からもエントリーできる。

【女子】

区分	種目
成年	100m、300m、800m、5000m、400mH、5000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投、ハンマー投、やり投
少年A	100m、300m、800m、3000m、100mH、300mH、砲丸投、やり投
少年B	100m、100mH、円盤投
少年共通	走高跳、走幅跳、三段跳
成年・少年共通	4×100mリレー

※成年5000mW、棒高跳には少年区分からもエントリーできる。

【男女混合】

区分	種目
成年・少年	4×400mリレー

12. 東京2020オリンピック競技大会選手報奨金の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り、10年間の間で順位の変動があった場合の差額支給の開始時期を、東京2020オリンピック競技大会終了日よりと規程に追記する東京2020オリンピック競技大会選手報奨金の改正が承認された。

13. 定款細則等の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り、国際陸上競技連盟のワールドアスレティックスへの組織名称変更に伴う定款細則、登録会員規程、登録会員処分規程、専門委員会運営細則の改正が承認された。

14. 栄章規程の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り、栄章規程の改正が承認された。なお、現在、2019年度の功労章、秩父宮章の推薦を加盟団体、協力団体等から受け付けているため、改正施行日は2020年4月1日とする。

15. リスク管理規程の制定

尾縣専務理事より資料に基づき、リスク管理規程の制定が説明された。役員等より更なる意見を聞き、精査するため継続して協議を行う。

16. 第4種公認陸上競技場の取扱いについて

高木施設用器委員長より資料に基づき説明があり、原案通り、第4種公認陸上競技場の取扱いについて承認された。

改正として、小中学校の普及啓発（育成）を進め、ウェルネス陸上の実現のため、地域の特性に応じた競技会を行い、陸上を楽しめる場を確保するため、4種L（ライト）を設ける。

規則改正として、公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程第3条、陸上競技場公認に関する細則第19条（第4種陸上競技場の特例）にて対応を行う。

17. 100m逆走の取扱いについて

高木施設用器委員長より資料に基づき説明があり、原案通り、100m逆走の取扱いについて承認された。

改正として、2016年改正で競技規則第163条においてレースは「左手を内側とする」から「1つの曲走路を含むレースでは、左手が内側になるようにする」と変更されたことから、逆走の施設を認める。

規則改正として、競技規則第163条〔国内〕、陸上競技場公認に関する細則第10条（標識タイロとマーキング）にて対応を行う。

第104回日本陸上競技選手権大会 参加資格

- 大会期日
2020年6月25日(木)～6月28日(日)
- 場所
ヤンマースタジアム長居(大阪)
- 実施種目
(1) 男子
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mH、400mH、3000mSC、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投
(2) 女子
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、100mH、400mH、3000mSC、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投
- 参加資格
2020年度本連盟登録者で、下記の(1)から(4)のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍競技者を含む)。
但し、男女の5000mでは日本選手権参加標準記録Aを満たし、参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位6名までをオープン参加として出場を認める。
(1) 第103回日本陸上競技選手権大会の優勝者(但し、その種目に限る)。
(2) 参加標準記録Aを突破した競技者。
(3) 第103回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走で下記の成績を取った競技者。
1) 女子5000m
①シニア女子8kmの優勝者
但し、本項によるエントリーは、女子5000m又は女子10000mのどちらか1種目に限る。
②シニア女子8kmの第2位、第3位の競技者で、女子5000mの参加標準記録Bを満たした競技者
(4) 2020年度の地域選手権が、2020年5月25日までに開催された場合は、各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。
開催されていない場合は、2019年度の地域選手権各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。
(5) 本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
(6) 開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。
- 参加標準記録
下記参照
- 参加標準記録有効期間
記録の有効期間は、男女10000m以外は2019年1月1日～2020年5月25日まで。
但し、Denka Athletics Challenge Cup、布勢スプリントにおけるグランプリ種目で参加標準記録を突破した競技者の申し込みを認める。
- その他
(1) 室内競技会の記録も有効とする。
(2) 800m(含ハードル)までの記録は電気時計(写真判定装置)で計測したもののみ有効とする。
(3) エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。その場合、上記参加資格に記載される(1)～(6)を優先順位として出場者を決定する。

第104回日本陸上競技選手権大会 参加標準記録

男子		種目	女子	
A	B		A	B
10'40	10'50	100m	11'80	11'85
20'80	20'95	200m	24'15	24'25
46'60 (300m:32'99)	46'85	400m	54'80	55'10
1'49'50	1'50'30	800m	2'08'50	2'09'30
3'45'00	3'46'00	1500m	4'21'50	4'23'00
13'42'00 (3000m:7'55'00)	13'52'00	5000m	15'36'00	15'45'00
13'92	14'05	110mH / 100mH	13'65	13'80
50'30	50'50	400mH	58'80	59'10
8'45'00	8'50'00	3000mSC	10'20'00	10'25'00
2m17	2m15	走高跳	1m76	1m73
5m30	5m25	棒高跳	3m90	3m85
7m80	7m75	走幅跳	6m10	6m05
15m90	15m80	三段跳	12m70	12m55
16m60	16m10	砲丸投	14m50	14m20
51m50	50m50	円盤投	47m50	47m00
64m00	62m50	ハンマー投	57m00	56m00
75m00	74m00	やり投	55m00	54m00

第104回日本陸上競技選手権大会・混成競技 参加資格

- 大会期日
2020年6月13日(土)～6月14日(日)
- 場所
長野市営陸上競技場(長野)
- 実施種目
男子十種競技、女子七種競技
- 参加資格
2020年度本連盟登録競技者で、下記の(1)から(5)のいずれかに該当し、日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍競技者を含む)。
(1) 第103回日本陸上競技選手権大会混成競技優勝者。
(2) 参加標準記録Aを満たした競技者。
(3) 2020年度の地域選手権が2020年5月24日(日)までに開催された場合は、混成競技3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。開催されていない場合は、2019年度の地域選手権混成競技の3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。
(4) 本連盟強化委員会が特に推薦する競技者。
(5) 開催陸上競技協会が推薦し、本連盟が承認する競技者。
- 参加標準記録
(1) 男子十種競技 A 7050点 B 6950点
(2) 女子七種競技 A 5000点 B 4900点
- 参加標準記録有効期間
(1) 記録の有効期間は2019年1月1日(日)～2020年5月24日(日)まで。
- その他
(1) 各種目とも最大エントリー数を27名とする。
(2) 参加資格(1)～(3)によるエントリー数が24名を超えた場合、参加資格(1)～(3)を優先順位として出場者を決定する。参加資格(4)及び(5)によるエントリーは最大3名までとする。参加資格(4)及び(5)によるエントリーが3名に満たない場合は、参加資格(1)～(3)において優先順位でエントリーが認められなかった競技者に、参加資格(4)及び(5)の未使用のエントリー枠を割り当てるものとする。参加資格各項内の優先順位は、参加標準記録有効期間内の記録上位順とする。
(3) 2019年1月1日以降の公認記録は、競技規則第260条18を満たすものとする。[第260条18一部抜粋: 風速を計測する種目においては、平均秒速(個々の種目で計測された風速を合計し、これを種目数でわったもの)は、2mを超えてはならない。]

2019-2020 ダイヤモンドアスリート認定式・修了式及び第1回リーダーシッププログラム

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介（環太平洋大学）

日本陸連は、2020年東京オリンピックと、その後の国際大会における活躍が大いに期待できる次世代の競技者を強化育成する「ダイヤモンドアスリート」制度を2014年から展開しています。このたび新規認定者2名、継続認定者6名からなる第6期（2019-2020）指定競技者を選出し、第6期認定式、第5期修了式が行われ、その後、第1回リーダーシッププログラムが実施されました。リーダーシッププログラムは、ダイヤモンドアスリートに提供されるプログラムの1つで、“競技力向上だけでなく、豊かな人間性を持つ国際人育成のための個を重視した育成プログラムの中で、リーダーシップ教育と位置づけて行う。国際的なリーダーシップを発揮できるアスリートの育成を目指す”ことを目的として実施されてきました。

本稿では認定式・修了式と第1回リーダーシッププログラムの様子を報告いたします。

第6期（2019-2020）認定式及び修了式

11月25日午前、東京・新宿区の「Japan Sport Olympic Square」（ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア）にある岸清一メモリアルルームにおいて、認定式・修了式が行われました。開式にあたって、本プログラム全体の統括も務める麻場一徳日本陸連強化委員会委員長から、本事業のスポンサー、サポーターへの感謝が述べられ、「ドーハ世界選手権には、修了生を含むダイヤモンドアスリート7名が代表として選考され、素晴らしい活躍をした。引き続き、ご支援ご指導いただきたい」と挨拶されました。続いて、石塚浩タレントマネージャー統括により、以下の第6期認定アスリートと修了者が発表されました。

発表された各選手には、プレゼンターとして招かれた男子走幅跳の橋岡優輝選手（日本大学）から、新規と継

新規	・ 鷗澤飛羽選手（築館高校2年・宮城、100m・200m） ※欠席
	・ 藤原孝輝選手（洛南高校2年・京都、走幅跳）
継続	・ 塚本ジャスティン惇平選手 （東洋大学1年・埼玉、100m・200m）
	・ クレイ・アーロン竜波選手（相洋高校3年・神奈川、800m）
	・ 中村健太郎選手（清風南海高校3年・大阪、やり投） ※欠席
	・ 海鋒泰輝選手（日本大学1年・千葉、走幅跳）
	・ 出口晴翔選手（東福岡高校3年・福岡、400mH）
	・ 小林歩未選手（筑波大学1年・千葉、100mH）
修了	・ 高松智美ムセンビ選手（名城大学2年・大阪、長距離） ※欠席
	・ 長麻尋選手（国士舘大学2年・和歌山、やり投）
	・ 宮本大輔選手（東洋大学2年・埼玉、100m・200m）
	・ 井本佳伸選手（東海大学2年・京都、200m・400m）
	・ 藤井菜々子選手（エディオン・大阪、競歩）

続の選手には認定証、修了生には修了証が授与されました。自身もこのプログラムの修了生である橋岡選手は、第6期アスリートに向けて、「私は、ダイヤモンドアスリートのプログラムを通じて、さまざまな方々からのお話を聞き、視野を広げることができた。ダイヤモンドアスリートであることを重視し、これからも精進してください」と激励しました。修了生に向けては、「ここからがシニアの第一歩ですので、より一層気を引き締めて頑張ってください」とエールが送られました。

これを受けて、第6期ダイヤモンドアスリートを代表してクレイ選手が挨拶し、「ダイヤモンドアスリート像にも上げられているように、競技だけではなく、国際的に活躍できる人間になれるよう頑張りたい。いよいよ来年は東京オリンピックの年になる。ダイヤモンドアスリートしてこの大会に出場し、皆さまに活躍を披露できるよう努力していくので、これからも応援よろしく願います」と決意を述べました。

最後に、修了生を代表して藤井選手が挨拶し、「ダイヤモンドアスリートとして、様々なプログラムを受けることで、人として、選手として成長することができた。“日本陸上界を私たちが引っ張っていく”という強い気持ちを持って、今後も精進していきます」と力強く述べ、認定式・修了式を締めくくりました。



【第6期 ダイヤモンドアスリート認定式】

第1回リーダーシッププログラム

第1部 トークセッション

講師：廣瀬俊朗氏、為末大氏

東京マラソン財団スポーツレガシー事業として、全4回行われるリーダーシッププログラムの第1回は、元ラグビー日本代表のキャプテンで現在は俳優やコメンテーターなど幅広く活躍している廣瀬俊朗氏を講師に招き、本事業運営委員の為末大氏が聞き手となり、トークセッションが第1部として実施されました。トークセッションでは、ラグビーワールドカップでの盛り上がり、現役

時代のリーダーシップなどに関する話を聞き、最後に質疑応答が行われました。以下、トークセッションの内容の要旨をご紹介します。

【ありのままのリーダーシップ】

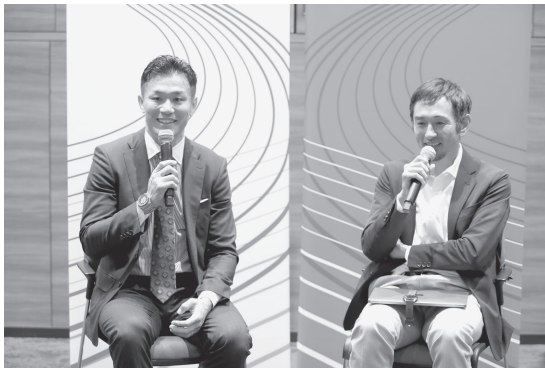
5歳からラグビーを始め、高校、大学と文武両道でいったが、社会人になってからラグビーだけに集中した。キャリアの中でキャプテンを任せられることが何回かあったが、誰かを真似してリーダーシップを発揮しようとした時にだいたい失敗していた。完璧でなくていいので、ありのままの自分をメンバーにぶつけていく方が、うまくいっていたことが多かった。失敗してもいいから、チャレンジして何かを得て、ノウハウをためながら、自分に最適なものを見つけていって欲しい。

【自国開催を力に】

自国開催をプレッシャーに感じるか、力と感じるかは大きな違いであって、今回のラグビー日本代表は後者であったと感じる。そこに至るまでの準備をどれだけしてきたかが大事であると考え、もし不安があるのであればそれを想定したトレーニングをするべきである。当日は澄み切った気持ちで、また幸せな気持ちで自分のことだけに集中して欲しい。

【自分らしさを大切に】

自分はこういう人間、こういう人間に自分はなりたい、という「自分」を捉えてほしい。体格的に大きくない選手にとっては、自分の役割がなんなのかずっと探していたし、その中で自分らしさをどう際立てていくかを考えていくのがとても大切だと考える。同じコミュニティにいてもそれがわからないことがあるので、違うスポーツや年齢が離れているなど自分と違う立場の人と情報交換し、自分らしさを作って欲しい。



第二部 講演

講師：塚田 邦晴氏

リーダーシッププログラムの第二部は、アスリートのマネジメントを手掛けるファーストラック株式会社の塚田邦晴氏に登壇いただき、BMXなどを中心としたア

クションスポーツのアスリートのマインドやSNSを利用したマネジメントの仕方を実際にSNSを利用しながら実施されました。以下に、その模様を抜粋してご紹介します。

【アクションスポーツで活躍している人の特徴は？】

芸術性や独創性が大切となるアクションスポーツでは、想像力を働かせながら、自分で考えてグローバルに活動していくことは活躍している人に共通しており、新しいスポーツであるので前例がなく自分で切り開いていくマインドセットがとても大切である。好奇心をもってアンテナをはって情報収集をしていくことで、自分にとって道を切り開く判断ができるようになる。意識的に従来の型を破って欲しい。

【SNS等をどう活用する？】

アクションスポーツのアスリートは多くが写真共有アプリケーションのInstagram（インスタグラム）を使用している。同種のSNSでTwitter（ツイッター）も存在するが、Twitterが言語と論理的思考を伝えるのに対して、Instagramは日々の創造性や芸術性について映像を利用して多くの人に届けられると同時に、常に創造性や芸術性を意識するためのトレーニングとしても活用している。

【Instagramを利用してアスリートをかっこよくみせるには？】

では、どのような映像を載せればアスリートをかっこよく多くの人に伝えられるのか、そのポイントは何かを塚田氏がマネジメントを務めるBMX選手のInstagramを用いて、少人数でグループワークが行われました。その際、写真を掲載する時のポイントや、どのようなコメントを添えるべきか、スポンサーや大会などをPRする方法はどのようなことがあるか等、実際の事例をもとに説明がなされました。また、一方で注目されるが故の危険性も隣り合わせで存在するので、その注意喚起も行われました。

第3部 振り返り

進行役：坂井伸一郎氏

2つのセッションが終了した後に、この日のプログラムについての「振り返り」が行われました。リーダーシッププログラム全体の司会や振り返りの進行役を務めている坂井伸一郎さん（株式会社ホープス代表取締役）が登場し、第1回のプログラムで得た学びを最大にすべく、振り返りの作業を進めていきました。受講者たちは、まず個人ワークとして振り返りシートに「自分が何を学んで持ち帰るか」を書き込み、修了生を交えた小グループでアドバイスを受けながらシートを完成させました。最後にグループごとに発表を行い、第一回のプログラムが終了となりました。

“日清食品カップ”第22回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会 普及ディレクター 岸 政智

“日清食品カップ”第22回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会は、全国47都道府県代表チームと、地元大阪の3チームを加えた50チームの参加により、2019年12月7日(土)・8日(日)2日間の日程で開催された。

第1日目は、大阪府池田市市民文化会館大ホール(アゼリアホール)において、研修会と監督会議が行われた。

13時より選手団受付が始まり、14時に研修会が開始された。今回の研修会は前回大会と同様、トッパスリートのトークショー形式で行った。まずは、開催地池田市を代表して冨田市長より歓迎のご挨拶をいただき、その後参加50チームの紹介と挨拶が行われた。

それと並行して、監督会議は14時から2階コンベンションホールにて行われ、主管である大阪陸上競技協会の司会進行で、大会当日の諸注意が説明され、質疑応答が行われた。

大ホールで引き続き行われた研修会では、スペシャルゲストとして、今年ラグビーから陸上界に戻って僅か半年で100mハードルの日本記録(12'97)を樹立したママさんハードラー、寺田明日香選手(パナグループ陸上競技部)を招聘した。講師並びに司会は日本陸上競技連盟指導者養成委員会普及ディレクター岸政智が行った。まずは、今季大ブレイクした寺田選手の活躍シーンを映像で流した。大きな歓声の中登壇いただいた。全国小学生陸上競技交流大会女子100mで2年連続第2位という結果を踏まえて、小学生の頃に陸上以外で行っていたスポーツや習い事を聞いてみた。陸上以外にもミニバスケットやその他のスポーツを行っていたこと、書道7段の腕前があることもお話しいただいた。発育発達の中で、小さいころは、一つの種目に拘らずにいろいろな種目にチャレンジすることを説明した。また「トランクスファー」という言葉について触れた。寺田選手は、小学生時代100m走で全国のトップクラスだったが、高校に進学後はハードルに種目変更をした。インターハイ3連覇や3年次には三冠を達成した数々の偉業とともに日本のトップ選手となるが、その後7人制ラグビーに転向、日本代表候補にも選出された。

ここで競技間の移動をし、また今年陸上界に戻ってきた。まさに日本陸連が競技者育成プログラムの基本的な考え方の一つである多様な競技種目への参加と継続の奨励に合致している。

是非ジュニアの競技者には、厳しい練習を行うことにより、スポーツ障害やバーンアウトのリスクもあるので、楽しみながら多種多様なスポーツに触れるよう説明をした。

その他、ジュニア期の結果は月齢によって影響があるとされる相対年齢効果や、寺田選手のように陸上競技を専門とする時期が遅い方が、実は世界選手権やオリンピックなどに出場する選手が多いなど資料を通して説明をした。選手にその場でいろいろと質問をしたところ、早生まれの選手や夏の大会に出場している選手も複数人いたことは、良い傾向だと感じた。

栄養では、バランス良く食べること、朝ご飯をしっかりと食べることを資料で説明をし、寺田選手には好き嫌いや、必ず食べる物をお聞きしながら話を進めた。ラグビーの時は、運動の絶対量が多かったため、今の食事の2倍以上食べていた話や、一回には多く食べられないので、間食をしていることも教えてくれた。間食といってもお菓子ではなく、おにぎりなどを食べているとのことだったが、たまにはご褒美ということで少し高いアイスを食べていると聞くと会場から笑いがおきた。

事前に参加選手から寺田選手へのアンケートを実施し、当日はその中から3名を寺田選手に抽選箱から選んでもらった。3名が登壇して直接質問をして、それぞれ回答してもらった。北海道出身ならではの、冬の時期グラウンドが使用できないときの練習方法や、ハードルの跳び方についての説明は、実技を踏まえていただき、選手達はそのスピード感に驚嘆していた。最後に寺田選手に来年の東京2020に向けての抱負と、選手たちへの大会でのエールを送り、大声援の中で降壇した。

その後、翌日に行われるキッズデカスロンチャレンジの説明を行い、研修会は終了した。

15時15分には監督会議に出席していた監督も戻り、チームごとにまとまって、「カップヌードルミュージアム 大阪池田」見学へ向かった。

第2日目は万博記念公園内特設コースにて、友好タイムトライアル

とクロスカントリーリレー大会が行われた。

開会式は、主催の公益財団法人日本陸上競技連盟 八木雅夫副会長、日清食品ホールディングス株式会社 代表取締役社長、公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団 理事長 安藤宏基様に御登壇いただき、参加50チームの選手団へ激励のご挨拶をいただいた。

選手宣誓は、福島県代表の鏡石第一の長尾虹汰くん・廣嶋あかりさんの二人が元気よく行ない、大会を盛り上げてくれた。

天候は晴れ時々曇り。時折日差しも強く10度を少し超え選手達にとっては、ちょうど良い気温となった。11時05分に女子友好タイムトライアル、11時15分に男子友好タイムトライアルがスタートした。

クロスカントリーリレーは、11時25分に第1走者が一斉にスタートした。1区から6区まで芳賀真剛陸上クラブ(栃木)が終始トップを譲らず独走のままゴールテープを切った。2位の北浜ジュニアランニングクラブ(兵庫)は序盤の出遅れを後半追いつき、昨年優勝チームの貫禄をみせた。3位は本陸上クラブ(京都)が入った。ここ数年関東勢が上位を独占していたが、今年も8区内に5チームが入った。競技結果の詳細については日本陸上競技連盟ホームページをご覧ください。

終了後、閉会式の前に、キッズデカスロンチャレンジ(デカチャレ)をおこなった。3年前よりゴールデングランプリや日本選手権、夏の全国小学生陸上競技交流大会などで行っている。いろいろな種目にチャレンジしようということで、場所や器具、学年に応じて行えるのが特色である。今回は場所と時間の関係で3種目(10mタイムトライアル、立三段跳び、ジャベボール投げ)となった。競技終了後の為、クールダウンやミーティング等で参加できないチームもあったが、全選手の半数近い、178名というたくさんの選手が参加をした。中には10mを5回チャレンジした選手も見受けられた。普段行わないタイム計測や距離や得点で競うことで興味を誘い楽しそうに実施しているようだった。今後もこの活動は様々な大会で続けていく。

尚、前日に続き寺田選手にお越しいただき、走る前の声かけや、表彰のプレゼンター、デカチャレにも積極的に参加をしていただいた。10mタイムトライアルや、立三段跳び、ジャベボール投げを体験し、選手達とも交流しながら、行っていただいた。

昨年の報告書でも記載したが、今大会も連続出場や連続入賞のチームが多く見られた。日本陸連の競技者育成指針には、小学校期は「ステージ2」楽しく陸上競技の基礎をつくる(身体リテラシーの継続的な育成)段階である。過度な競争や強化が助長されることを懸念し、22回を数える“日清食品カップ”全国小学生クロスカントリーリレー研修大会は今大会を持って終了とさせていただきます。

日本陸連では、今後も、指針に基づく指導者を多く養成する為に、普及育成委員会から指導者養成委員会に名称変更をした。競技者指導指針に基づく指導者を多く養成することで、より多くの子供たちが走ることを楽しみ、関心を持ち、継続してくれることを期待している。

最後に、22年間の長きにわたり、ご協賛いただいた、日清食品ホールディングス株式会社様、公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団様、後援・協賛・協力を頂いた各団体の皆様と、主管いただいた大阪陸上競技協会の皆様、そして最後に大会を盛り上げていただいた寺田明日香選手に心より感謝申し上げます、全国小学生クロスカントリーリレー大会の終了報告とする。



JAAF 公認コーチ養成講習会開催報告

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会 田中 悠士郎

味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて JAAF 公認コーチ (JSPO 公認陸上競技コーチ 3) 養成講習会を 2019 年 12 月 21 日～24 日の 4 日間で開催した。本講習会の目的は、都道府県レベルの競技者の指導・育成・強化にあたる指導者を養成することである。昨年度から日本実業団陸上競技連合推薦の指導者の受講 (毎年 30 名程度) も加わり今年度は 8 月と本講習会 (12 月) の 2 回開催となった。今回の受講者は各都道府県陸協から推薦を受けた中学・高校・大学の教員、民間の陸上競技クラブの指導者、実業団の指導者 (主に長距離) など 72 名であった。

講習は基礎理論と実技に分けて行われ、主な基礎理論では日本陸連専務理事の尾縣貢氏から現代におけるコーチングの在り方などについて、同強化委員長の麻場一徳氏より 2020 年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた日本陸連の強化方針をベースに選手育成における指導者の必要性について、指導者養成委員会特別委員の繁田進氏より日本陸上競技連盟競技者育成指針とコンプライアンスについて、医事委員会委員長の山澤文裕氏からはアンチドーピングに関する最新情報について、鳥居俊氏より陸上競技で起こりやすいスポーツ障害に加え長距離選手の貧血に対する鉄剤注射の危険性についての講義があった。そのほか、陸上競技のルールを鈴木一弘氏 (競技運営委員長)、短距離の科学は松尾彰文氏 (鹿屋体育大学)、跳躍の科学は小山宏之氏 (日本陸連科学委員)、投擲の科学は高松潤二氏 (同)、スポーツと栄養を葛西真弓氏 (医事委員会スポーツ栄養部)、コーチングスキルと女性指導者について秋元恵美氏 (指導者養成委員) が

それぞれ担当した。また指導者養成委員長の山本浩氏による諸外国の事例を元に指導者養成についての講義も行われた。

実技講習においては、2 日間にわたって短距離、ハードル、競歩、跳躍、投てき種目の段階的な指導方法について指導者養成委員会の委員が講師として各種目を担当した。

また、3 日目には実技講習で紹介された指導法をもとに、種目別指導演習を実施した。この種目別指導演習では、講義で学んだコーチングスキルを活用し、受講者がコーチ役とアスリート役に分かれ指導方法に関する実践の場として位置付けている。指導する内容については、受講者の専門種目以外が割り当てられ、中高生を対象とした練習における指導を想定し、指導案の作成とそれに沿った指導実践が展開された。この指導実践における評価及びフィードバックは世界陸連レベル 1 講師の有資格者が担当した。

受講者は全てのプログラムにおいて積極的に取り組み、各種目の指導について段階的な指導やコーチングスキルを用いた指導方法を理解していただけたものと思われる。

本連盟は日本スポーツ協会と連携を取りながら指導者資格の位置づけや内容等を検討しており、公認ジュニアコーチも含めてできるだけ多くの公認指導者を認定し、将来的には全ての指導者の資格取得を目指している。一方で資格取得者が資格を失効することがないように、資格更新の更新研修を充実させるとともに情報発信等の取り組みを行い、指導力向上の支援に努めていきたいと考えている。



ワールドアスレティックス ラベルロードレース メディカルディレクターの要件

医 事 委 員 長 山 澤 文 裕

国際陸連 (IAAF) はワールドアスレティックス (WA) にその名称を変更し、さらなる発展を目指している。大量参加型ロードレースは世界中で増加しているが、その安全性および安心性を高めるために、WAはロードレースラベル制度を改定し、さらにメディカルおよびアンチ・ドーピング活動にさらに注力している。

まず、ラベル制度の改定である。WAは2019年11月15日に、2020年のラベルロードレースの規約、ラベルによる認定選手等を発表した。これまで最上位であったゴールドラベルの上に、プラチナラベルを新設し、プラチナ、ゴールド、シルバー、ブロンズの4つのラベルとした。2020年は、現在のところWMM6レース (東京、ボストン、シカゴ、ニューヨーク、ロンドン、ベルリン) に加え、名古屋ウイメンズ、ソウルマラソン、ボゴタハーフの合計9レースがプラチナラベルを取得した。プラチナラベルレースには男女ともに最低3名のプラチナ選手、最低4名のゴールド選手 (プラチナ選手でも可能) の招待が必要だが、ラベルロードレース規約で定められている。プラチナ選手は男女とも23名指定されたが、日本人選手は選ばれていない。これらのプラチナ選手が男女ともに最低3名が大会に出場しないとプラチナラベルレースと認められなくなるため、プラチナラベルの維持はハードルが高い。今後、プラチナラベルレース数が急増することは想定しにくい。ゴールドラベルレースにはゴールド以上の選手4名、シルバー以上の選手3名、シルバーラベルレースにはシルバー以上の選手5名、ブロンズラベルレースにはブロンズ以上の選手5名の出場が定められている。ゴールド選手には男女とも128名が指定され、日本人選手では男子4名 (服部勇馬 (トヨタ自動車)、村山謙太 (旭化成)、大迫傑 (Nike)、設楽悠太 (Honda))、女子4名 (前田穂南 (天満屋)、松田瑞生 (ダイハツ)、新谷仁美 (Nike Tokyo TC)、小原怜 (天満屋)) が指定されている。ラベルロードレースに出場する選手のドーピング検査を強化するため、AIUは競技会外ドーピング検査数を増加する予定で、その費用捻出のためレースのラベルごとにWAへの納付金を定めた。プラチナラベルは66,667USドル、ゴールドラベル15,000USドルなどであり、2020年には総額260～320万USドルの

収益を見込んでいる。

一方、ラベルロードレース規約には記載されていないが、ラベルロードレースのメディカルディレクターは2年ごとにWA実施のロードレースに特化したワークショップに参加しなければならないことを、WAヘルス・サイエンス部が定めた。2019年5月のボストンを皮切りに、東京 (7月)、ドーハ (10月)、バレンシア (11月)、シンガポール (12月) で行われた。

筆者は東京とドーハのワークショップに参加したが、東京では約30名、ドーハでは約40名が参加した。東京でのワークショップについて説明する。ワークショップのタイトルは「Race Emergency Medicine Workshop」であり、レース中に発生する救急医療に関するものである。プログラム (図1) にあるように、午前中は東京マラソンにおける医療サービス (筆者)、熱中症 (細川ゆり、早稲田大学)、脱水および低Na血症 (クリス・トロヤノス、ボストンマラソンメディカルディレクター)、持久競技の心血管系への影響 (アンドラ・ゲルシェ、メルボルン大学)、横紋筋融解症 (田畑尚吾、慶應義塾大学) がレクチャーを行った。午後は参加者を4つのスモールグループに分け、アイスバスを用いた熱中症の現場での治療、心停止事例への対応、iSTATを用いた現場での血液検査、爆発物・落雷の危険性への対応、をそれぞれ40分間、上記の講師の指導の下、事例検討や実地トレーニングを行った。非常に実践的な内容であり、参加者には有意義な1日であった。しかし、日本陸連から国内のラベルロードレース大会に対して、メディカルディレクターをこのワークショップへ参加させるように事前連絡を行ったが、残念ながらメディカルディレクターの参加は数える程度しかなかった。東京でのワークショップ修了者には、WAヘルス・サイエンス部長のステファン・バーモン医師と筆者の両名による修了書を発行した (図2)。

ラベルロードレース規約に、メディカルディレクターの要件が記載されることも視野に入れ、早急にそれぞれの国内ラベルロードレースのメディカルディレクターは、「Race Emergency Medicine Workshop」を受講すべきである。2020年のスケジュールはまだ確定していないが、アジアにおいては中国とシンガポールでの開催が予定されている。

Program:

08.30-08.45	Welcome remarks (Presentation of IAAF/IIRM, Scope of the cooperation, objectives of the course, learning objectives)
08.45-09.25	The Tokyo marathon medical services. Practical examples from a high-level running event - Fumihiko Yamasawa
09.25-10.05	Heat stress and heat-related illnesses - Yuri Hosokawa
10.05-10.25	Break
10.25-11.05	Dehydration and hyponatremia - Chris Troyanos
11.05-11.45	Cardiovascular effects of endurance exercise - André La Gerche
11.45-12.25	Rhabdomyolysis and other endurance exercise related diseases - Shogo Tabata
12.25-13.25	Lunch break
13.25-14.05	I round of small group activities
14.05-14.45	II round
14.45-15.05	Break
15.05-15.45	III round
15.45-16.25	IV round
16.25-16.45	Evaluation of the workshop and assessment of the educational objectives
16.45-17.00	Closing remarks

図 1



図 2

2DAYS TO ENJOY THE TRACK

R RUNNING DAY

JAAF
RunLink

RUNNING DAY

2020.02.22 sat - 23 sun in 夢の島競技場

RunningDayは「#FirstTrack」をコンセプトに、
普段なかなか走る機会のないトラックを走る楽しみを味わってもらうイベントです。

会場には、「走る」をテーマにした様々なアイテムやサービスが多数揃う
「OFF TRACK MARKET」も登場。

走る走らないに関わらず、どなたにも楽しんでいただける2日間です。



ON TRACK

2020.02.22 sat

TRACK × KIDS, FAMILY

親子かけっこ教室
10m 走
50m TIME TRIAL

2020.02.23 sun

TRACK × RUNNER

1000m TIME TRIAL
5000m TIME TRIAL



OFF TRACK

OFF TRACK MARKET

会場には「走る」「ランニング」を切り口にした様々なアイテム
やサービスが揃う「OFF TRACK MARKET」が登場。走る
ひとはもちろん、走らないひとにも楽しんでいただけます。

詳細やエントリーはこちらから! →



【主催】公益財団法人 日本陸上競技連盟 【共催】江東区陸上競技協会
【後援】江東区、スポーツ庁、経済産業省、日本経団連 【協力】JAAF RunLink賛助会員各社
問い合わせ:runningday@jaaf-runlink.jp



JAAF RunLink

「JAAF アスレティックス・アワード 2019 報告」

事務局

2019年12月16日(月)日本陸連の年間表彰セレモニー「JAAF アスレティックス・アワード2019」を開催いたしました。

本表彰式は、その年の日本選手権優勝者の栄誉を称えるとともに、国内外の大会での活躍が顕著であった競技者や陸上競技を通じて社会に貢献した競技者・関係者を表彰するもので、今年で13回目を迎えました。

当日は、選手77名と日ごろから陸上競技界をご支援いただいているスポンサー各社、関係者の方々、そしてファンの皆さまもご招待し、約280名様にご出席を賜り、受賞者をお祝いするとともに、ご出席者同士での交流を深められておりました。



写真提供：フォート・キシモト

〈受賞者一覧〉

■アスリート・オブ・ザ・イヤー

- ・鈴木 雄介 (富士通)
ドーハ2019世界陸上競技選手権大会
男子50km競歩 金メダル

■優秀選手賞

- ・男子4×100mリレー日本代表
多田修平 (住友電工) / 白石黄良々 (セレスポ) / 桐生祥秀 (日本生命)
サニブラウン アブデルハキーム (フロリダ大学) / 小池祐貴 (住友電工)
ドーハ2019世界陸上競技選手権大会 アジア記録樹立
日本記録樹立 37秒43 銅メダル
- ・戸邊 直人 (JAL)
2019IAAFワールドインドアツアー日本人初優勝
日本記録樹立 2m35
- ・山西 利和 (愛知製鋼)
ドーハ2019世界陸上競技選手権大会
男子20km競歩 金メダル

■新人賞

- ・城山 正太郎 (ゼンリン) /
東京運動記者クラブ選出 男子
アスリートナイトゲームズイン福井
男子走幅跳 日本記録樹立 8m40
- ・田中 希実 (豊田自動織機TC) /
東京運動記者クラブ選出 女子
ドーハ2019世界陸上競技選手権大会
女子5000m 日本歴代2位 15分00秒01
- ・川野 将虎 (東洋大学) /
日本陸上競技連盟選出 男子
全日本50km競歩高島大会 日本記録樹立 3時間36分45秒 (2019年世界ランキング1位)
- ・藤井 菜々子 (エディオン) /
日本陸上競技連盟選出 女子
ドーハ2019世界陸上競技選手権大会
女子20km競歩 7位入賞

■特別賞

- ・故・小出 義雄
日本陸上競技界の名伯楽。本年2019年4月24日逝去。
シドニーオリンピック女子マラソン金メダルの高橋尚子さん、バルセロナ、アトランタ両オリンピックのマラソンでメダルを獲得した有森裕子さんをはじめとする多くのトップランナーを育てた。

■日本グランプリシリーズチャンピオン

- (男子)・高山 峻野 (ゼンリン)
110mH シリーズポイント 3844.6pt
- (女子)・北口 榛花 (日本大学)
やり投 シリーズポイント 3924.0pt



高山選手



北口選手

写真提供：フォート・キシモト

「アスレティックス・アワード2019」各受賞者コメント、動画、ファン投票TOP10などは日本陸連公式WEBサイトをご覧ください！

<http://www.jaaf.or.jp/> 又は、 **アスレティックス・アワード2019** **検索**

施設用器具委員会報告(2019-2)

施設用器具委員会

◆2019年度に公認した競技場及び長距離競走路

		9720	福知山市立桃映中学校運動場 第4種(条件付) 300m 一部全天候 継続	福知山市字堀 1691 2019.07.26 ~ 2024.07.25
9703	ランニング桜島(ハ) 鹿児島市桜島横山町~桜島横山町多目的広場 ▽21km0975・10km 自転車計測 往復(一部循環) 継続 2019.03.01 ~ 2024.02.28	9721	光洋精機アスリートフィールド長井付設 ナガイ黒獅子(ハ) 光洋精機アスリートフィールド長井 ▽21km0975 自転車計測 循環 継続 2019.10.06 ~ 2024.10.05	
9704	酒田シティ(ハ) 酒田市光ヶ丘(陸) ▽21km0975・10km 自転車計測 往復 継続 2019.08.24 ~ 2024.08.23	9722	江東区夢の島(競) 江東区夢の島の1の2 第2種 400m 全天候 継続 2019.10.10 ~ 2024.10.09	
9705	新潟ピックスワン(ハ) 新潟スポーツ公園~ビッグスワンスタジアム ◆21km0975 自転車計測 循環 継続 2019.03.11 ~ 2024.03.10	9723	新発田市五十公野公園(陸)付属(長) 新発田市五十公野公園(陸)付属(長) ▽42km195(条件付) 自転車計測 往復 継続 2019.10.09 ~ 2024.10.08	
9706	亀岡(運)(競)付設(ハ) 亀岡(運)(競) ▽21km0975・10km 自転車計測 往復 継続 2019.10.01 ~ 2024.08.11	9724	飯田市(総) 飯田市松尾明 7445 第2種 400m 全天候 継続 2019.10.10 ~ 2024.10.09	
9707	船岡(ハ) 船岡中学校校庭 ▽21km0975・10km 自転車計測 往復 継続 2019.09.20 ~ 2024.08.19	9725	広島経済大学(陸) 広島市阿佐南区祇園5の37の1 第4種 400m(人工芝) 全天候 継続 2019.10.18 ~ 2024.10.17	
9708	小樽手宮公園(競) 小樽市手宮2の5の1 第3種(条件付) 400m 全天候 継続 2019.09.18 ~ 2024.09.17	9726	鳥栖 鳥栖スタジアム南ゲート 10km 自転車計測 循環 継続 2019.11.01 ~ 2024.10.31	
9709	フードバレーとかち(ハ) 藤丸百貨店付近~中央公園付近 コード番号(017540) ▽21km0975 自転車計測 周回 新設 2019.09.01 ~ 2024.08.31	9727	日置市伊集院総合(運)(陸) 日置市伊集院町野田 1792 第3種 400m 全天候 継続 2019.10.01 ~ 2024.09.30	
9710	足立フレンドリー(ハ) 千住新橋左岸「高砂野球場前」 ▽21km0975・10km・5km 自転車計測 往復 継続 2019.10.01 ~ 2024.09.30	9728	江東シーサイド(ハ) 江東区夢の島競技場 ▽21km0975・10km 自転車計測 循環 継続 2019.10.10 ~ 2024.10.09	
9711	栗東市野洲(運)(陸) 栗東市出庭地先 野洲川河川敷 第4種 400m 全天候 継続 2018.09.01 ~ 2023.08.31	2929	弥彦 弥彦村麓 10km ワイヤー計測 往復 継続 2019.05.12 ~ 2024.05.11	
9712	美幌町柏ヶ丘(運) 網走郡美幌町字西2条南5丁目 第4種(条件付) 400m 一部全天候 継続 2019.09.15 ~ 2024.09.14	9730	千歳市青葉(陸) 千歳市真町 176の1 第3種 400m 全天候 継続 2019.11.30 ~ 2024.11.29	
9713	高根沢町元気アップ(ハ) 高根沢町町民広場(陸) ▽21km0975 自転車計測 循環 継続 2019.11.01 ~ 2024.10.31	9731	日本大学(陸) 世田谷区桜上水3の24の22 第4種 400m 全天候 継続 2019.03.01 ~ 2024.02.28	
9714	鎌ヶ谷市市営(陸) 鎌ヶ谷市初富924の283 コード番号(124130) 第4種 400m 全天候 新設 2019.06.25 ~ 2024.06.24	9732	岐阜協立大学(陸) 安八群神戸町柳瀬字西河原 2117 第4種 400m 全天候 継続 2019.11.25 ~ 2024.11.24	
9715	県都一周(長) 八橋(運)(陸) ▽42km195・21km0975 ワイヤー計測 周回 継続 2019.10.10 ~ 2024.10.09	9733	南紀田辺スポーツセンター 田辺市上の山1の23の1 第4種 400m 投擲 人工芝 全天候 継続 2019.11.01 ~ 2024.10.31	
9716	新宿シティ(ハ) 明治神宮外苑内周回路~明治神宮野球場内 コード番号(137600) ▽21km0975・10km 自転車計測 周回 新設 2019.10.01 ~ 2024.09.30	9734	宮崎県西都公認(長) 西都市聖陵町 ▽42km195 ワイヤー 往復 継続 2019.10.20 ~ 2024.10.19	
9717	胎内市総合(グ) 胎内市西条666 第3種(条件付) 400m 全天候 継続 2019.09.20 ~ 2024.09.19	9735	国際武道大学(陸) 勝浦市新宮字物見塚841 第3種 400m 全天候 継続 2019.09.30 ~ 2024.09.29	
9718	篠山城跡(長) 篠山市役所東側~篠山城跡3の丸広場 ▽42km195 自転車計測 往復(一部循環) 継続 2019.11.28 ~ 2024.11.27	9736	国立(競) 東京都新宿区霞ヶ丘町 10-1 コード番号(131040) 第1種 400m 全天候 新設 2019.11.04 ~ 2024.11.03	
9719	新居浜市東雲(陸) 新居浜市東雲町三丁目地先(陸) 第4種(条件付) 300m 全天候 継続 2019.09.23 ~ 2024.09.22	9737	オリンピックスタジアムウオーモアップトラック 東京都新宿区霞ヶ丘町2 コード番号(133260) 第3種 400m 全天候 新設 2019.11.04 ~ 2024.11.03	
		9738	“日本のへそ” 西脇子午線(ハ) 緯度橋上~日本のへそ公園駐車場 ▽21km0975・10km 自転車計測 往復(一部循環) 継続 2019.11.01 ~ 2024.10.31	
		9739	小野希望の丘(陸) 兵庫県小野市浄谷町 2233の1 コード番号(284200) 第4種(条件付) 400m 人工芝 全天候 新設 2019.12.01 ~ 2024.11.30	

9740	奥球磨(ハ)	水上中学校前～水上村役場前	
	▽21km0975・10km	自転車計測 往復 継続	2019.11.15～2024.11.14
9741	白老桜ヶ丘公園(陸)	白老郡白老町緑丘4の636	
	第4種 400m(条件付) 土質	継続	2019.06.01～2024.05.31
9742	八戸うみねこ(ハ)	八戸市新湊三丁目	
	▽21km0975・10km	自転車計測 往復 継続	2019.12.01～2024.11.30
9743	早稲田大学織田幹雄記念(陸)	埼玉県所沢市三ヶ島2の579の15	
	第4種 400m 全天候	継続	2019.11.11～2024.11.10
9744	久留米(10km)	久留米補助競技場～久留米百年公園	
	▽10km	自転車計測 片道(一部変) 継続	2020.01.20～2025.01.19
9745	秋田県営(陸)	秋田市雄和椿川字駒坂台4の1	
	第1種 400m切捨 全天候	継続	2019.12.01～2024.11.30
9746	秋田県営補助(陸)	秋田市雄和椿川字駒坂台4の1	
	第3種 400m切捨 全天候	継続	2019.12.01～2024.11.30
9747	魚津市しんきろう(ハ)	魚津テクノスポーツドーム	
	10km ワイヤー	往復 継続	2019.12.01～2024.11.30
9748	おかやま(長)	岡山総合(グ)体育館前～岡山県(陸)	
	▽42km195	自転車計測切捨 循環 継続	2019.12.01～2024.11.30
9749	札幌市厚別公園補助(競)	札幌市厚別区上野幌3条1の2の1	
	第3種 400m 全天候	継続	2019.11.25～2024.11.24
9750	能美市営	能美市根上総合文化会館前	
	コード番号(197280) ◆20km・10km・5km (歩)		
	自転車計測 周回 (1km) 新設		2020.01.01～2024.12.31
9751	物産フードサイエンス1969知多スタジアム(20km歩)	知多(運)(陸)正面駐車場	
	コード番号(227140) ▽20・10・5Km (歩)	自転車計測	
	周回 (1km) 新設		2020.01.01～2024.12.31

◆検定延期が承認されている競技場及び長距離競走路

(2019.12.4現在)

[北海道]	8918	北見(ハ)	21km0975	2019.10.05～2020.10.04
[北海道]	8962	札幌市厚別公園(競)	第1種400m・クラスII	2019.11.25～2020.07.31
[青森]	8950	中泊町(運)(陸)	第4種400m	2019.11.17～2020.11.16
[山形]	8958	光洋精機アスリートフィールド長井	第3種400m	2019.11.30～2020.05.31
[栃木]	8825	足利市総合(運)(陸)	第4種400m	2019.04.01～2020.03.31
[埼玉]	8902	セントポールズ・フィールド	第4種400m	2019.07.22～2020.07.22
[千葉]	8928	松戸(運)(陸)	第3種400m	2019.10.01～2020.09.30
[石川]	8915	金沢(長)	42km195	2019.11.19～2020.05.30
[兵庫]	8888	神戸総合(運)補助(陸)	第4種400m	2019.06.15～2020.06.13
[岡山]	8970	岡山県笠岡(陸)	第2種400m	2019.12.31～2020.03.07
[広島]	8881	広島県総合(グ)補助(競)	第4種300m	2019.04.29～2020.04.28
[徳島]	8872	とくしま(長)	42km195	2019.06.01～2020.02.28

[愛媛]	9020	愛媛県総合(運)補助(陸)	第3種400m	2019.10.01～2020.03.31
[沖縄]	8923	沖縄県総合(運)補助(陸)	第3種400m	2019.09.30～2020.05.31

◆公認が廃止となった競技場及び長距離走路

(2019.08.01～2019.12.04)

[北海道]	8911	紋別市(運)(陸)		2019.08.13
[北海道]	8892	滝川市(陸)		2019.06.29
[秋田]	8912	男鹿なまはげ(ハ)		2019.08.31
[栃木]	8927	はが路ふれあい(長)		2019.10.01
[千葉]	室内76	印西市松山下公園総合体育館 室内棒高跳場		2019.08.31
[東京]	8895	小平市立中央公園(競)		2019.07.19
[東京]	8968	国立市 20km		2019.11.05
[神奈川]	8938	三浦国際市民(ハ)10km		2019.09.30
[福井]	8884	美浜(20km)		2019.05.30
[福井]	8969	中日福井(ハ)		2019.07.30
[静岡]	8896	しまだ大井川マラソンinリパティ(長)		2019.07.31
[愛知]	8967	パロマ瑞穂スタジアム付設(20km)(歩)		2019.11.30
[大阪]	8857	関西大学千里山中央(グ)		2019.04.30
[大阪]	8932	河内長野市(ハ)		2019.09.30
[兵庫]	9016	甲南大学六甲アイランド総合体育施設(陸)		2020.03.30
[鳥根]	8948	吉賀町立蔵木中学校グラウンド		2019.10.31
[岡山]	8921	井原(運)(陸)		2019.09.30
[山口]	8949	萩ウェルネスパーク多目的広場		2019.11.14
[鹿児島]	9001	中種子町(陸)		2019.10.05
[沖縄]	8910	東京オリンピック聖火宿泊記念久志(20km・10km)		2019.09.07

◆名称変更のあった競技場及び長距離競走路

(2019.08.01～2019.12.04)

[千葉]	9460	岩名(運)(陸) ⇒ 岩名(運)小出義雄記念(陸)	
[愛知県]	9334	知多(運)(陸) ⇒ 物産フードサイエンス1969知多スタジアム	

◆新設の競技場及び長距離競走路

(2019.08.01～2019.12.04)

[北海道]	9709	フードバレーとかち(ハ)		
		▽21km0975	2019.09.01	
[千葉]	9714	鎌ヶ谷市市営(運)	◎第4種400m	2019.06.25
[東京]	9716	新宿シティ(ハ)	▽21km0975	2019.10.01
[東京]	9736	国立(競)	◎第1種400m	2019.11.04
[東京]	9737	オリンピックスタジアムウオームアップトラック		
		◎第3種400m	2019.11.04	
[石川]	9750	能美市営	◆20km(歩)	2020.01.01
[愛知]	9751	物産フードサイエンス1969知多スタジアム 付設		
		▽21km(歩)	2020.01.01	
[兵庫]	9739	小野希望の丘(陸)	◎第4種400m	2019.12.01

大会観戦ガイド

第39回大阪国際女子マラソン大会 兼 マラソングランドチャンピオンシップ ファイナルチャレンジ ～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～

- ▼日時：2020年1月26日（日）12時10分スタート
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：
大阪・ヤンマースタジアム長居
大阪市東住吉区長居公園1-1 TEL：06-6691-2500
- ▼コース：ヤンマースタジアム長居～昭和町～今川2～大池橋～勝山4～森ノ宮～OBP～北浜～大阪市役所～御堂筋～道頓堀橋南詰折り返し～淀屋橋～片町～大阪城公園～森ノ宮～勝山4～大池橋～今川2～昭和町～ヤンマースタジアム長居（42.195km）
- ▼アクセス：ヤンマースタジアム長居
市営地下鉄御堂筋線「長居」駅、
JR阪和線「長居」駅または「鶴ヶ丘」駅下車
- ▼テレビ放送予定：関西テレビ系（全国ネット）
1月26日（日）12時00分～14時55分
- ▼問合せ先：大阪国際女子マラソン大会事務局
TEL：06-6633-9632
- ▼大会公式サイト：<https://www.osaka-marathon.jp/>



昨年度の大会より

第103回日本陸上競技選手権大会・室内競技 2020 日本室内陸上競技大阪大会

- ▼期日：2020年2月1日（土）9時30分競技開始
2月2日（日）9時30分競技開始
- ▼会場：大阪・大阪城ホール
大阪市中央区大阪城3-1 TEL：06-6941-0345
- ▼アクセス：JR大阪環状線大阪城公園駅下車徒歩5分
- ▼競技種目：

【2月1日（土）】

シニアの部

- 男子 60mH（1067mm）
- 女子 60m、60mH（838mm・8.5m）、棒高跳、三段跳

U20の部

- 男子 60mJH（991mm）
- 女子 60mH（838mm・8.5m）、棒高跳、三段跳

U18の部

- 男子 60m、60mH（991mm）、棒高跳、走幅跳
- 女子 60m、60mH（762mm・8.5m）、走幅跳

U16の部

- 男子 60m、60mH（914mm）、走幅跳
- 女子 60m、60mH（762mm・8.0m）、走幅跳

【2月2日（日）】

シニアの部

- 男子 60m、走高跳、棒高跳、走高跳、三段跳
- 女子 走高跳、走幅跳

U20の部

- 男子 60m、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳
- 女子 60m、走高跳、走幅跳

小学生の部

- 男子 60m（オープン競技 5・6年生共通）
- 女子 60m（オープン競技 5・6年生共通）

※参加申込み人数によっては、競技種目の実施日を変更する場合があります。

▼問合せ先：公益財団法人日本陸上競技連盟 事務局

室内陸上担当 TEL：050-1746-8410

小学生の部については大阪陸上競技協会（TEL：06-6697-8899）へ連絡のこと。

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1383/>



昨年度の大会より

第103回日本陸上競技選手権大会 男子・女子20km競歩 兼 東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会 第31回U20選抜競歩大会

神戸市の六甲アイランド甲南大学西側20kmコース（新コース）で行われる男女の20km競歩の日本選手権大会です。今回は東京2020オリンピックの日本代表選手選考競技会を兼ねています。

▼日時：2020年2月16日（日）

▼コース：兵庫・六甲アイランド甲南大学周辺コース

▼種目・スタート時刻

- | | |
|-----------------|--------|
| 男子20km競歩（日本選手権） | 8時50分 |
| 女子20km競歩（日本選手権） | 10時35分 |
| U20男子10km競歩 | 12時35分 |
| U20女子5km競歩 | 13時35分 |

▼問合せ先：一般財団法人兵庫陸上競技協会 TEL 078-231-1771

▼日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1385/>



昨年度の大会より

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸連ファン投票、「Olympic Hopeful Athlete 2019」結果発表!◆◆

2015年より実施しております日本陸連ファン投票。

本年は「あなたがもっともオリンピックに期待する選手は誰ですか!？」というテーマにてインターネットでの投票をファンの皆さまから受付し、7,773票のご応募をいただきました。

2019年12月16日(月)に開催しました「アスレティックス・アワード2019」にて表彰しました。

- 1位: 多田 修平 (住友電工)
- 2位: 橋岡 優輝 (日本大学) ★ダイヤモンドアスリート修了生
- 3位: 山縣 亮太 (セイコー)

【受賞者コメント】

～多田選手～

「投票した人達のコメントを読み上げられ恥ずかしいですね。でも、まさか自分が選ばれるとは思ってなかったので、非常に嬉しいです。

(高平の「人間性は優しくてそれが素ですよ?」という問いに) …そうですね笑。

スタートダッシュは、まだまだ自分にとっては遅いスタートです。リレーとか100mで他の選手をつき離したいなと思います。」

～橋岡選手～

「たくさんのコメントをいただき、凄くありがたいことだなと実感しています。

(高平の「自分でも甘いマスクという自覚はありますか?」という問いに) その質問には答えづらいですね…思っていないです!

僕なんか投票していただいて本当にありがとうございます。投票してくださった皆様の期待に応えられるように、オリンピックでは結果を残したいと思っています。」

※ 山縣選手は欠席のためコメント無し。



写真提供: フォート・キシモト

◆◆メールマガジン配信中!◆◆

日本陸連公式メールマガジンを好評配信中です。

登録は <https://www.jaaf.or.jp/mailmagazine/> か、右のQRコードから!



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 八木 雅夫 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 麻場 一徳 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL: 050-1746-8410
FAX: 050-3588-1869